



その「物語」の物語。

“ペログリ”的複眼思考の味わい vol.108

a taste of Ya'ssy

田中 康夫



Ya'ssy

たなかやすお ●'56年生まれ。作家。'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選、'09年8月の衆議院選挙で兵庫8区から立候補し当選、1期務める。
【公式ブログ】<http://tanakayasuo.net/>

経済は歴史現象。科学も自然現象。故に、全く同一の条件は一度と起り得ません。数学的期待値を絶対視する確率論に基づく「金融工学」が「金融破綻」を齎したのも宜なる哉。が、「じょう」と「いちばん」二つの読み方が存在する「市場」は地獄的規模で、電子機器の画面上に表示される数値がそのままになっているのです。

その前者を公理とする「日経ビジネス」誌は「企業が繁栄を謳歌出来る期間=会社の寿命は30年」

と奇しくも丁度30年前に唱えました。16年後の1999年に同誌は時価総額なる評価基準で会社の寿命を再測定し、「日本企業で約7年、米国企業で約5年」と発表します。

爾来14年、都合30年。「寿命」は更に縮まっているのです。

その過酷な「市場」で闘う企業家に「国家百年の計」と同じ尺度で経営判断を求めるのは至高無理な話です。齢50の壮年向けに「貴方の百年後の人生設計プラン」を保険会社が商品化しても、誰も見向こもしないのと同じく。

他方で「国民国家」の永続・繁栄を万人が願つなら、政治が提示・実現すべきは「国家百年の計」。

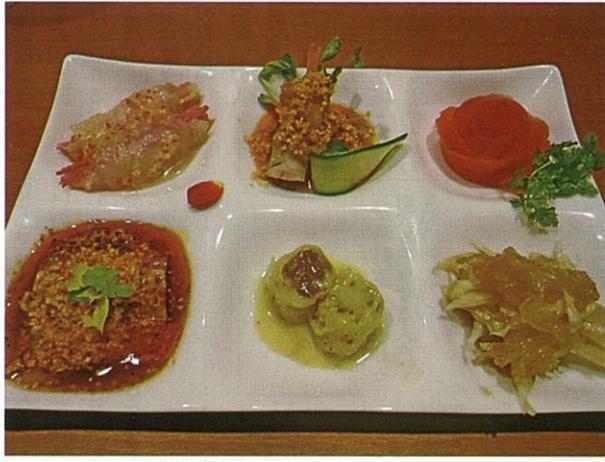
歴史家の智性や芸術家の勘性が政治家に求められる所以。にも拘らず、聞こえの良い自先の甘言ばかりが横行闊歩しています。

数百年、数千年の尺度で政治判断に関し、最終処分場は県外設置を約束するから

貯蔵施設に同意せよ、と被災地で展開される「御為倒し」こそ、問題先送りに他なりません。仮に責

「国家百年の計」の哲学と氣概を持った「公益資本主義」の具現化が求められている

今週の逸品



四川料理の前菜5品盛り合わせコース 3880円~の一皿目

「百菜百味」の呼称から連想は惣菜料理。豈団らんやチャイナパールと銘打って西麻布と銀座に出現した四川料理の彗星。2時間飲み放題付きコースは3900円~7000円の4種類。火鍋コースは2980円、4980円の2種類。写真の前菜5品盛り合わせは鮮魚のスライス巻、マグロの四川風、紅芯大根、白菜とクラゲの酢の物、豚バラ大蔵ソース、牛肉と蛸の巣の辛味ソース。単品は250円~。

[百菜百味] 東京都港区西麻布3-1-20 Dear西麻布4F ☎03-6434-9838
※11:30~15:00、17:00~23:00(L022:00) 日曜定休 分煙 <http://100s100m.com/>

illustration by Hajime Anzai

断すべき高濃度放射性廃棄物の帰趨に関し、最終処分場は県外設置を約束するから30年限定の中間貯蔵施設に同意せよ、と被災地で展開される「御為倒し」こそ、問題先送りに他なりません。仮に責めていると僕には思えます。中国大使館で商務官を務めし徐耀華氏が新展開の「百菜百味」で四川料理の刺激を脳髄に受けながら過日、改めて痛感しました。

任者が齢50として、30年後は引退しているのですから。フクイチ30km圏内は「放射能に占領された領土」と冷静・冷徹に捉え、居住禁止区域に設定。愛着を抱く郷里から離れる当該住民には國家が新たな住居と職業を保証・提供。現時点では地球上の何処にも存在せぬ最終処分場として、住民移住後の30km圏内に世界中から核廃棄物を受け入れたなら、これぞ最大最強の安全保障政策。繰り返し提言する理由です。

米国型の株主資本主義とも中国型の国家資本主義とも異なる「公益資本主義」の具現化が求められています。それは、市場万能主義の暴走・迷走を是正する上で極めて重要な視点。提唱者の一人である異兄・原丈人氏の言を借りれば、利益を求める欲望経済を利用しながら、社会にとつて有用な企業を全世界に生み出す流れを創り出していく経済システムの構築です。

革新的な技術を実用化し、新産業を創出するには中長期の投資が必要不可欠。それこそは政治が担うべき「国家百年の計」。而して米国も中国も、悔しい哉、この哲学と気概を国家の最高指導者は持ち合わせていると僕には思えます。

